

優しくて厳しいお父さん

ラジオネーム…しんいち

僕の父は、僕が高校生一年生の秋脳溢血で、突然亡くなりました。

仕事の面でも、多くの人から信頼されて、大事な役職を務めていたのです。我が家は僕の上に姉が二人、つまり男の子は僕だけです。

当時で言う跡取りという訳です。それがやっと高校生という時に

父が亡くなったのは、母にとっても、既に嫁いでいた長女にとっても

大きなショックでした。働き盛りの大黒柱がいなくなったのです。

父は大きな体のやさしい目をした男でした。

甘やかすというほどではありませんでしたが、僕を穏やかに育ててくれていたと思います。しかし、怒った時説教をする時、父の視線はなかなか厳しく「怖いなあ」と思ったものです。

家族のおかげで大学を出て、就職もできたのですが、

今父がいたらなんというだろうか、一緒に酒を飲んだらどんな感じだったろうかな。家族のおかげで大学を出て、就職もできたのですが、今父がいたらなんというだろうか、一緒に酒を飲んだらどんな感じだったかな。とか、また、ずっと父がいたら違った成をしたかな。などとも考えたりします。父が亡くなった年齢をはるかに過ぎて、男の子供ふたりも、46代

です。自分なりによくやったと思うと同時に、父は僕に何か期待していたんだろうか、どう生きて欲しかったのかな、と考えてしまいます。母も亡くなりましたが、きっと天国で父の死後の我が家のあれこれを報告している事でしょう。「あなたが早く死んじゃうからから、苦労したのよ」と文句を言っているかもしれません。そう思うと母と言い合いをしていた時の父の困ったような仏頂面が、思い出されて笑ってしまいます。お父さん。あなたの息子は何とか人生を歩いてきましたよ。

さて。父の視線は優しいかな？ 厳しいかな？
そのうち会えたら、確かめられるでしょう。

リクエスト曲

へ サラ・ヴォーン／イン・ア・センチメンタルムード へ